

平成30年度「卓越大学院プログラム」審査結果について

卓越大学院プログラム委員会

「卓越大学院プログラム」（以下「本事業」という。）は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材（高度な「知のプロフェッショナル」）を育成することを目的とする事業である。

大学院の量的拡大を経ての修士・博士人材の増、大学における研究環境の一定の改善、世界的な競争力を有する研究分野の増加等が進む一方、経済成長が低下する中で世界における我が国のプレゼンスは揺らいでいる。特に、近年では優秀な若者が博士課程に進学しない「博士離れ」の状況が、我が国の知的創造力を将来にわたって低下させ、学術や科学技術イノベーションを含めた国際競争力の地盤沈下をもたらしかねない深刻な事態である。

今後我が国が豊かさを維持し成長していくためには、経済・社会の変化が急速に進む中で世界の産業構造を捉え、将来の新たな基幹産業を我が国が主導して創出すること（Society 5.0 社会の実現）が求められており、今日の大学院には、その源となる知や技術を生み出すとともに、それらを社会的価値につなげることでできる人材を輩出することが求められている。

これまでも、平成23年度から開始された「博士課程教育リーディングプログラム」等を通じて進められてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの養成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが必要であり、これまでの取組によって各大学に蓄積された人材や研究の強みを生かし、我が国の未来の社会を支える国際的な競争力を備えた大学院を博士人材育成の場として形成していくことが必要である。

本事業は、各大学が持つそれぞれの問題意識に基づき当該大学全体の大学院改革を実現することを前提として、本事業への参加と取組及びその成果を通じ、我が国全体の大学院改革、すなわち大学院システム全体の見直しや各大学院における教育改革加速化を推進するものである。我が国をリードする大学院改革事業として、各大学の特色・強みを生かした独自の構想づくりを期待し、それぞれの自由な発想を生かした提案を求めた。

本事業では、国際的に通用する博士課程前期・後期一貫した質の保証された学位プログラムを構築・展開する取組について、以下の（１）から（４）の要件を満たすものの中から、高度な「知のプロフェッショナル」育成という目的に照らし、「プログラムの卓越性」、「構想の実現可能性」、「プログラムの継続性及び発展性」、「実効性」等を、教育研究の観点及びマネジメントの観点から総合的に勘案し選定することとし、本年４月６日から６月６日までの期間に事業の公募を実施した。

- （１） 高度な「知のプロフェッショナル」を育成するために、養成すべき人材像（どのような分野で活躍し、いかなる価値を創造して人類社会の課題解決を牽引する人材を育成するか）を明確に設定しているものであること。
- （２） 学長の責任の下、大学本部が主体的に関わる体制を構築し、当該大学の大学院全体の改革を実現する観点から、プログラムの構築・実施、成果の波及、取組の継続性・発展性の確保等を図るものであること。
- （３） 補助期間終了後に、高度な「知のプロフェッショナル」を輩出する仕組みとしての質が下がることがないようにすること。

- (4) 高度な「知のプロフェッショナル」にふさわしい俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性が涵養されるよう、広範かつ一貫した教育課程を構築するものであること。

公募期間内に国公私立大学から54件の申請を受付け、独立行政法人日本学術振興会において卓越大学院プログラム委員会の下に審査・評価部会を設け審査を行った。

審査・評価部会における審査では、提出された申請書類による「書面審査」を行う一次審査とヒアリングによる「面接審査」を行う二次審査の2段階審査を実施した。一次審査では主に専門的な知見により申請プログラムに深く関係する分野にかかる卓越性、実現可能性等について意見を付す審査意見書を作成し、それを参考として審査委員が書面審査を実施の上、合議により面接審査対象プログラムを選定した。面接審査では構想ごとにプログラム責任者、プログラムコーディネーター等を対象にヒアリング審査を3日間にわたり実施した。

これらの審査に基づき、9月12日の本委員会において15件を採択することが妥当という審査結果をとりまとめたので公表する。

今年度採択されたプログラムは、高度な「知のプロフェッショナル」の育成という、本事業の目的に沿って、各大学において、どのような卓越した博士人材を育成するのかという定義付けが適切になされ、その上で、どのような取組や教育プログラム、あるいは環境の整備が必要なのかが十分に検討され、大学院全体の改革につながるような優れた提案であった。特に、次世代の社会を担う人材を育成する観点で、自然科学分野から人文・社会科学分野まで幅広く提案の中に取り込み文理融合の新たな制度設計を目指している点は、大学院全体の改革につなげることが期待される取組であると言える。

社会の変革がめまぐるしい今こそ、引き続き大学には、培われた知識や洞察力を将来の価値創造や現実社会の問題解決に生かすという役割が期待されており、我が国の大学院改革をリードする新たな提案を期待したい。

当委員会としても、今後も引き続きより良い審査を行うことができるよう、公募及び審査の在り方をさらに検討していくこととしたい。

資料

1. 平成30年度卓越大学院プログラム 申請・採択状況一覧
2. 平成30年度卓越大学院プログラム 採択プログラム一覧
3. 平成30年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧
4. 平成30年度卓越大学院プログラム委員会等の日程について

1. 平成30年度 卓越大学院プログラム 申請・採択状況一覧

設置形態	申請数		採択数	
	大学数	件数	大学数	件数
国立	28	44	12	14
公立	3	3	0	0
私立	7	7	1	1
合 計	38	54	13	15

2. 平成30年度 卓越大学院プログラム 採択プログラム一覧

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター名	連携先機関
1	北海道大学	One Healthフロンティア卓越大学院	堀内 基広 (大学院獣医学研究院・研究院長・教授)	帯広畜産大学(原虫病研究センター)、酪農学園大学、塩野義製薬株式会社、扶桑薬品工業株式会社、世界保健機関、国際獣疫事務局、国際協力機構
2	東北大学	未来型医療創造卓越大学院プログラム	中山 啓子 (大学院医学系研究科 医科学専攻・教授)	宮城県、登米市民病院、みやぎ県南中核病院企業団、公立刈田総合病院、National Institutes of Health(アメリカ合衆国)、National University of Singapore(シンガポール)、University of Sydney(オーストラリア)、Tropical medicine, Philippines(フィリピン)、Peking University(中国)、Norwegian University of Science and Technology(ノルウェー)、小野薬品工業株式会社、協和発酵キリン株式会社、バイオジェン・ジャパン株式会社、株式会社ジーシー、株式会社モリタ、株式会社トクヤマデンタル、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社フィリップス・ジャパン、株式会社島津製作所、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社NTTDコモ、株式会社ヤクルト、カゴメ株式会社、株式会社ケアサービス、株式会社トブコン、鹿島建設株式会社技術研究所
3	東北大学	人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム	金子 俊郎 (大学院工学研究科電子工学専攻・教授)	日本電気株式会社、株式会社東芝、キヤノンメディカルシステムズ株式会社、株式会社日立ソリューションズ東日本、株式会社ケーヒン、イー・アンド・エム株式会社、アイシン・コムクルーズ株式会社、株式会社KDDI総合研究所、三菱電機株式会社、昭和電工株式会社、東日本電信電話株式会社、アルプス電気株式会社
4	筑波大学	ヒューマニクス学位プログラム	柳沢 正史 (国際統合睡眠医科学研究機構・機構長)	カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ合衆国)、ポルドー大学(フランス)、国立台湾大学(台湾)、エジンバラ大学(イギリス)、国立研究開発法人物質・材料研究機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、トヨタ自動車(株)、(株)日立製作所、(株)島津製作所、CYBERDYNE(株)、アステラス製薬(株)
5	東京大学	生命科学技術 国際卓越大学院プログラム	吉川 雅英 (大学院医学系研究科・教授)	アステラス製薬、オリンパス、キヤノンメディカルシステムズ、塩野義製薬、シスメックス、ジョンソン・エンド・ジョンソン、第一三共、武田薬品、東京大学産学協創プラットフォーム開発
6	東京農工大学	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成	宮浦 千里 (副学長)	株式会社クボタ、イオンアグリ創造株式会社、株式会社島津製作所、一般財団法人日本自動車研究所、公益社団法人日本農業法人協会、一般社団法人首都圏産業活性化協会、株式会社リパネス、株式会社リクルートキャリア、実践女子大学、コーネル大学(アメリカ合衆国)、カリフォルニア大学デービス校(アメリカ合衆国)、オックスフォード大学(イギリス)、ライプニッツ農業景観研究所(ZALF研究所)、ボン大学(ドイツ)、ベトナム林業大学(ベトナム)、ガジャマダ大学(インドネシア)

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター名	連携先機関
7	東京工業大学	「物質×情報=複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造	山口 猛央 (科学技術創成研究院(物質理工学院)・教授)	国立研究開発法人物質・材料研究機構、国立研究開発法人産業技術総合研究所、Leiden University(オランダ)、McGill University(カナダ)、Max Planck Institute(ドイツ)、Imperial College London(イギリス)、Cornell University(アメリカ合衆国)、Sorbonne University(フランス)、Tsinghua University(中国)、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、マツダ株式会社、株式会社ぐるなび、旭化成株式会社、富士フイルム株式会社、住友化学株式会社、三菱ケミカル株式会社、JX金属株式会社、東ソー株式会社、住友電気工業株式会社、三菱ガス化学株式会社、TDK株式会社、昭和電工株式会社、JFEスチール株式会社、株式会社東芝
8	長岡技術科学大学	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム	大石 潔 (大学院工学研究科・教授(副学長))	デウスト大学(スペイン)、モンドラゴン大学(スペイン)、IITマドラス(インド)、ヨーク大学(イギリス)、長岡市、新潟市
9	名古屋大学	トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム	山口 茂弘 (トランスフォーマティブ生命分子研究所・教授)	自然科学研究機構分子科学研究所、自然科学研究機構基礎生物学研究所、総合研究大学院大学、(国研)理化学研究所、(株)カネカ、コニカミノルタ(株)、日本たばこ産業(株)植物イノベーションセンター、ITbMコンソーシアム
10	名古屋大学	未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム	天野 浩 (未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター長、教授)	(国研)物質・材料研究機構、(国研)産業技術総合研究所、(国研)宇宙航空研究開発機構、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、(株)豊田中央研究所、日産自動車(株)、(株)東芝、(株)富士通研究所、三菱電機(株)、古河電気工業(株)、住友電気工業(株)、太陽日酸(株)、(株)サイオクス、(株)ミライプロジェクト、日本ベンチャーキャピタル(株)、(株)カピオン、オフィスエイトックス、ユーリッヒ総合研究機構、ノースカロライナ州立大学(アメリカ合衆国)、南京大学(中国)、シンガポール国立大学(シンガポール)、Innovation for High Performance Microelectronics(ドイツ)、Interuniversity Microelectronics Center(ベルギー)
11	京都大学	先端光・電子デバイス創成学	木本 恒暢 (大学院工学研究科電子工学専攻・教授)	ケンブリッジ大学(イギリス)、スイス連邦工科大学チューリッヒ(スイス)、フンボルト大学ベルリン(ドイツ)、ドレスデン工科大学(ドイツ)、成均館大学(韓国)、南京大学(中国)、量子科学技術研究開発機構、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、電力中央研究所、島津製作所、日本電産、三菱電機、住友電気工業
12	大阪大学	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養	森井 英一 (大学院医学系研究科・医学専攻・教授)	Biomedical Research Victoria(オーストラリア)、Johnson & Johnson Innovation、ファイザー(株)、ノバルティス ファーマ(株)、医薬基盤・健康・栄養研究所、国立医薬品食品衛生研究所、(独)医薬品医療機器総合機構、大阪府、第一三共(株)、バイエル薬品(株)、塩野義製薬(株)、中外製薬(株)、日本イーライリリー(株)、タカラバイオ(株)、IQVIAソリューションズジャパン(株)、大塚製薬(株)、田辺三菱製薬(株)、シスメックス(株)、GEヘルスケア・ジャパン(株)

連番	大学名	プログラム名称	プログラムコーディネーター名	連携先機関
13	広島大学	ゲノム編集先端人材育成プログラム	山本 卓 (大学院理学研究科数理分子生 命理学専攻・教授)	京都大学iPS細胞研究所、徳島大学大 学院社会産業理工学研究部、ハーバード大学 Department of Molecular and Cellular Biology(アメリカ合衆国)、マツ ダ株式会社技術研究所
14	長崎大学	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム	有吉 紅也 (熱帯医学研究所・教授)	ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (LSHTM)、北海道大学人獣共通感染症 リサーチセンター、帯広畜産大学原虫病 研究センター、国立国際医療研究セン ター(NCGM)、国際協力機構(JICA)、 シスメックス株式会社
15	早稲田大学	パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム	林 泰弘 (先進理工学研究科 先進理工 学専攻・教授)	北海道大学、東北大学、福井大学、山 梨大学、首都大学東京、横浜国立大 学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、 徳島大学、九州大学、琉球大学、テネ シー大学ノックスビル校(アメリカ合衆 国)、シカゴ大学(アメリカ合衆国)、ワシ ントン大学(アメリカ合衆国)、清華大学 (中国)、チュロンコン大学(タイ)、ミュ ンヘン工科大学(ドイツ)、パワーアカデ ミー、電力中央研究所、産業技術総合 研究所、JXTGエネルギー

3. 平成30年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧(総表)

区分		単独申請		共同申請		合計	
		大学数	件数	大学数	件数	大学数	件数
国立大学	申請数	28	44	0	0	28	44
	ヒアリング 対象数	20	26	0	0	20	26
	採択数	12	14	0	0	12	14
公立大学	申請数	3	3	0	0	3	3
	ヒアリング 対象数	0	0	0	0	0	0
	採択数	0	0	0	0	0	0
私立大学	申請数	7	7	0	0	7	7
	ヒアリング 対象数	3	3	0	0	3	3
	採択数	1	1	0	0	1	1
全大学	申請数	38	54	0	0	38	54
	ヒアリング 対象数	23	29	0	0	23	29
	採択数	13	15	0	0	13	15

3. 平成30年度卓越大学院プログラム 審査経過状況一覧(機関別詳細)

【国立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
1	北海道大学	2	2	1
2	東北大学	3	2	2
3	山形大学	1	1	0
4	筑波大学	2	2	1
5	群馬大学	1	0	0
6	埼玉大学	1	0	0
7	千葉大学	2	0	0
8	東京大学	6	2	1
9	東京農工大学	1	1	1
10	東京工業大学	1	1	1
11	お茶の水女子大学	1	0	0
12	電気通信大学	1	0	0
13	東京海洋大学	1	0	0
14	新潟大学	1	1	0
15	長岡技術科学大学	1	1	1
16	金沢大学	2	1	0
17	北陸先端科学技術大学院大学	1	0	0
18	名古屋大学	3	2	2
19	京都大学	2	2	1
20	京都工芸繊維大学	1	1	0
21	大阪大学	1	1	1
22	神戸大学	1	1	0
23	奈良女子大学	1	1	0
24	奈良先端科学技術大学院大学	1	1	0
25	広島大学	3	1	1
26	九州大学	1	1	0
27	九州工業大学	1	0	0
28	長崎大学	1	1	1
	合計	44	26	14

【公立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
29	名古屋市立大学	1	0	0
30	大阪市立大学	1	0	0
31	大阪府立大学	1	0	0
	合計	3	0	0

【私立大学】

	機関名	申請件数 (合計)	面接審査実施数 (合計)	採択件数 (合計)
32	慶応義塾大学	1	0	0
33	明治大学	1	0	0
34	早稲田大学	1	1	1
35	同志社大学	1	1	0
36	立命館大学	1	1	0
37	関西大学	1	0	0
38	沖縄科学技術大学院大学	1	0	0
	合計	7	3	1

合計	54	29	15
----	----	----	----

4. 平成30年度卓越大学院プログラム委員会等の日程について

